

～TYの短歌紀行 満腔春意編～

まだまだ寒い日が続きますが、皆様、如何お過ごしでしょうか。
中国では古代より、「春夏秋冬」、それぞれの季節に色を纏わせました。
「青春」「朱夏」「白秋」「玄冬」…
「玄（くろ）き冬」に在りながら、再び「青き春」を探しに参りましょう。

素饅飩に
壬生菜切り餅
かしはの身
煙花（えんか）遙けし
一味少なし



名古屋市南区鳴尾に私達夫婦が頻繁に通う「うどん 天鼓」さんがあります。
数あるメニューの中、「ハリハリあられうどん」が私の最近のお気に入り。
中に入る具材は歌中の通り。（実際は、壬生菜ではなく、「水菜」です…）
お好みで「柚子胡椒」を用いると味のアクセントとなり、より刺激的です。

道元の「正法眼蔵」の中に「煙火稀なり 一味少なし」という一文あり。
「炊飯の煙の立つことは稀であり、副食物の品数も少ない」との意味です。
禅宗の修行僧における食生活の慎ましさを表現したものです。
この語調に惹かれ、そのまま「煙花遙けし 一味少なし」と変化させました。
「桃の花が春靄に溶け込む美しい季節は、まだ先なので、
この度、一味唐辛子の投入量は控えめにしておこう」との歌意です。

今朝つきし
三つ指を以（も）て
父（かぞ）と飲む
氷解の春
グリーンアラスカ



氷が解けることを日本語では、「解氷」とも、「氷解」とも言います。
「解氷」という表現は単純に「氷が解けること」を指します。
比して「氷解」はその意味に加えて、「蟠りが消える」という含みを持つ。

私には女兄弟や、娘はおりません。父娘の確執等、よく理解していません。
故にこの歌は、「私の空想の中のそれ」ということになります。
結婚というものは、「頑ななものを解く効果」があるのかもしれませんが。
しかし、その根底に流れるのは「自身を育てくれた父への感謝」…
「素直につけた三つ指」と「父と共にカクテルグラスを傾けている指」…
その一致が、カクテル「グリーンアラスカ」のように「春」を告げます。

「冬にありながら、春を探している」、そんな短歌仲間を募集しています。